

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和7年11月18日 第5時限
- 3 学 級 15HR（22名）
- 4 使用教科書 家庭総合 気づく力、築く未来（実教出版）
- 5 単 元 名 衣生活をつくる

6 単元設定の理由

(1) 教材観

持続可能な社会の構築に向けた快適な衣生活を主体的に営むためには、被服を購入する段階から活用・手入れ・保管・再利用・廃棄までを見据えた循環型の被服計画の必要性を理解し、実践できる力を身に付けることが重要である。本単元では、衣服を大切に管理し、補修やリメイクなどの技術を活用すること、持続可能な衣生活の実践につなげることを目指す。

(2) 生徒観

衣生活分野の授業開始時のアンケートによると、生徒の多くは衣服の洗濯や補修を自ら行った経験が少なく、ボタンが取れた場合には「誰かに直してもらおう」や「直さない」と答えた生徒も多い。また、衣服を購入する際には「色柄・デザイン」「流行」「サイズ」を重視する傾向が強く、洗濯や取り扱いについて考える生徒はほとんどいなかった。現在は生活面のほとんどを家族に任せている生徒が多いが、数年後には一人の成人として自立した生活を主体的に営む力が必要になると考えられる。

(3) 指導観

衣生活を主体的に営むことができるようにするため、衣服を大切に着用するための適切な管理に関する知識や技術、簡単な補修やリメイクができる技能、既製服を購入する際に必要な情報を多角的に収集・整理する力、着用後の廃棄まで考える力を身に付けさせたい。また、生徒が知識や技能を確認したり、繰り返し学んだりできるように、被服実習等でタブレットや既存の動画を活用し、視覚的に確認できる環境を整える。この単元を通して、生徒は衣服の管理や補修技術を実践的に学び、日常生活において自ら考え、判断し、主体的に衣生活を営む力を身に付けることが期待される。

7 単元の目標

(1) 衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めることができるようにする。ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解しているとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができるようにする。被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けることができるようにする。

(2) 主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができるようにする。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践できるようにする。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めている。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解しているとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。	主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

9 指導と評価の計画 (20 時間)

第1次	人と衣服のかかわり、衣服の機能	1時間
第2次	衣服の素材	3時間
第3次	衣服の選択から管理まで	4時間
第4次	衣生活と資源・環境 (持続可能な衣生活)	2時間
第5次	快適な衣生活	1時間
第6次	衣服をつくろう	9時間

本時8/9

	【ねらい】・学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	態	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> 人と衣服のかかわり、ライフステージごと衣服について知る。 快適な衣生活を送るために衣服の持つ機能や安全性などについて理解する。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 人と衣服とのかかわり、ライフステージごとの衣服について理解している。(学習ノート) 自然環境と衣服のかかわり、社会環境と衣服の関係から、衣服が持つ機能を理解できている。(学習ノート・観察)
第2次	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の素材であるさまざまな繊維の特徴を知り、用途に応じた素材について考察し、選択する。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 衣服材料の種類と特徴、衣服素材の性能についての知識を身に付けている。(学習ノート) 用途に応じた素材について考察し、適切な衣服の選択している。(学習ノート・観察)
第3次	<ul style="list-style-type: none"> 表示の種類・意味を知り、洗濯、染み抜き、仕上げ、保管等の衣服の適切な手入れについて科学的に理解する。 衣類の入手から処分までの衣生活の流れを理解し、豊かな衣生活とは何かを考える。 豊富に出回る既製服の中から適切な選択・購入により実践する方法を記入する。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の表示の見方、洗剤の表示の見方、適切な衣服管理について科学的に理解している。(学習ノート) 衣類の入手から処分までの衣生活の課題を設定し、豊かな衣生活に向けた解決方法を検討している。(学習ノート) 衣生活の選択・購入から廃棄に至るまで、衣服計画の重要性を理解し、適切な選択・購入を実践しようとしている。(学習ノート・観察)
第4次	<ul style="list-style-type: none"> 衣服と人、環境との関わり等について、衣生活を取り巻く課題、日本と世界とのつながりなどを理解し、その課題や自らの行動を考える。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 衣服と人・資源・環境についての関係を理解している。(学習ノート) 洗濯や廃棄処分における環境への影響を考え、リユースなど、環境に配慮した衣生活について考え、工夫している。(学習ノート・観察)
第5次	<ul style="list-style-type: none"> 衣服と健康障害や事故との関係や、ユニバーサル・デザインについて考える。 			●	<ul style="list-style-type: none"> 衣類に起因するトラブルなどに関して学び、適切な衣類の選択・管理の方法や、衣服のユニバーサル・デザインの社会での活用について考察したことを論理的に表現している。(学習ノート・観察)
第6次	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの操作方法、まち針の打ち方、ボタン付けなど縫製の基本的な技能を活用して、使用目的に合ったデザインのエプロンを製作する。 被服実習を通して、衣生活の改善について考える。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的なミシン縫いや縫い等の縫製の基本技能を確認し、使用目的に合わせたデザインの衣服製作実習に基本的な技能を活かしている。(ワークシート、製作物) ボタンの機能や用途を理解した上で、飾りボタンとして創意工夫ができており、衣生活の改善について考えている。(手順書・ワークシート・製作物)

10 本時の指導目標

- ・ボタンの機能や用途を知り、ボタンを視点に衣生活の改善について構想することができる。

(思考・判断・表現)

11 本時の展開 (50分)

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入	～ボタン付けを通して衣生活の改善について考える～			
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を把握する。 ・ワークシートで事前確認を行い、必要な道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を伝える。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタンの機能や用途を知る。(ワークシート) ・ボタン付けの方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタンの機能や用途を説明する。 ・基本的なボタン付けの方法、なぜその方法でボタンを付けるのか、目的や理由も説明する。 ・チェックポイントを伝える。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・玉結び・玉留めの方法やボタン付け手順の動画を見て理解する。(スクリーン) ・ボタンを付ける位置を自分で考えて付ける。 ・途中、何度でも繰り返して動画を見て作業をする。(各自のタブレット) 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つ穴ボタンの動画をスクリーンに提示する。 ・玉結び、玉留めの動画も提示し理解を助ける。 ・エプロンにはボタンホールはないため、どこに付けるのがよいか自分で考えるよう促す。 ・適宜机間巡視し、ポイントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタンの位置を自分で考え、工夫して配置できる(思考・判断・表現) 	製作物
	<ul style="list-style-type: none"> ・作業進度により、四つ穴ボタン、足つきボタンも付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進度の速い生徒には、四つ穴ボタンや足つきボタンも動画を見て学べるよう準備しておく。 		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする ・衣生活の改善について構想し、ワークシートにまとめる。 ・日誌の記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の衣生活を振り返らせ、今後の衣生活の改善について考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活の改善について構想することができる。(思考・判断・表現) 	ワークシート 日誌

12 評価の目安と目標実現のための手立て

A	十分満足できる	ボタンの機能や用途を理解し、ボタンを視点に衣生活の課題を的確に捉えて、解決方法の構想に創意工夫をしている。
B	おおむね満足できる	ボタンの機能や用途を理解し、ボタンを視点に衣生活の改善について構想している。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	躓いている箇所を確認し、視覚的な支援を取り入れながら、ボタンの機能や用途とボタン位置との関係等、重要なポイントを説明する。